

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
104-3	高等学校	農業	果樹	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	農業 717	果樹		

## 1. 編修の基本方針

教育基本法第二条の各号の目標を達成するため、それぞれ以下の点を基本方針とし、本書を編修した。

教育基本法第二条	方針
<p>第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が主体的に学習できるよう、目標を設定した。</li> <li>・果樹についての栽培や研究の歴史、先端的研究の成果などを適宜示し、真理を求める態度を養うようにした。</li> </ul>
<p>第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・果樹栽培と果実生産の社会的意義や役割について理解させることで、日常生活や社会との関連を考えることができるようにした。</li> <li>・実際に学習した知識・技術を活用できるよう配慮した。また、学習内容を活用した活動例を示すことで、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うようにした。</li> <li>・農業における役割の他に、環境や他産業などの関わりについても意識させ、職業観を養うようにした。</li> </ul>
<p>第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の発展に寄与する態度を養うため、実際、社会で応用されている例を示した。</li> </ul>
<p>第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験・実習の材料となる果樹を大切に扱い、生命を尊び、自然を大切にする態度を養うようにした。</li> <li>・環境保全に寄与する態度を養うため、人間生活と生態系・環境への影響に配慮した。</li> </ul>
<p>第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統や文化を尊重した題材や写真を学習内容に関連付けて取り上げた。</li> <li>・日本古来の農作物を扱い、日本の伝統的な食材に対する理解が深まるようにした。</li> <li>・果樹栽培の成果などを適宜取り上げることで、自国・他国の発展に寄与する態度を養うようにした。</li> </ul>

## 2. 対照表

### ● 全体的な特色

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
本文中の重要用語	・学習上重要な用語について、ゴシック体で強調し、あわせて丁寧な説明を記述することで、幅広い知識と教養が定着するよう配慮した(第1号)。	p. 8, p. 9, p. 10 など
目標	・各節の初めに目標を設け、これから学ぶ内容を簡潔に示すことで、学習内容に関する興味・関心を喚起し、自ら学ぼうとする態度を養えるよう配慮した(第2号, 第4号)。	p. 8, p. 14, p. 21, p. 26 など
コラム	・果樹と果実生産に関する話題や知識を紹介し、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるよう配慮した(第1号, 第5号)。	p. 89, p. 149, p. 185, p. 201 など
果樹あれこれ	・実生活にも関わる果樹や果実についての知識を紹介し、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるよう配慮した(第1号, 第2号, 第5号)。	p. 27, p. 88, p. 129, p. 174 など
やってみよう	・果樹と果実生産やその背景にある知識の理解を深めるための簡単な実験・実習を配置し、創造性を培うとともに自ら学ぼうとする態度を養えるよう配慮した(第2号, 第4号)。	p. 10, p. 16, p. 32, p. 47 など
調べてみよう	・果樹と果実生産やその背景にある知識の理解を深めるための簡単な調査課題を配置し、自ら学ぼうとする態度、真理を求める態度を養えるよう配慮した(第1号, 第4号)。	p. 8, p. 12, p. 27, p. 29 など
写真・イラスト	・具体的な作業のようすを示すことで勤労の実態をイメージさせるとともに、男女の平等を重んずる態度を養えるよう、イラストや写真に男女がともに掲載されるよう配慮した(第3号)。	p. 13, p. 21, p. 22, p. 254, p. 256 など

### ● 各章における特色

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1章 果樹の種類と果樹栽培の動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容を活用する活動例を示すことで、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うようにした(第2号)。</li> <li>・果樹栽培や果実生産とその背景にある知識の理解を深めるための課題を適宜配置し、創造性を培うとともに自ら学ぼうとする態度を養えるよう配慮した(第2号)。</li> </ul>	p. 21-24  p. 8, p. 10 など

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の発展に寄与する態度を養うため、実際、社会で応用されている例を示した(第3号)。</li> </ul>	p. 12-13
第2章 果樹の生育と栽培環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・真理を追究してきた研究の歴史や先端的研究の成果などを適宜示し、真理を求める態度を養えるようにした(第1号)。</li> <li>・果樹栽培や果実生産の基礎となる生物学的知識、先端的研究の成果などを適宜示し、真理を求める態度を養えるようにした(第1号)。</li> <li>・果樹栽培や果実生産とその背景にある知識の理解を深めるための課題を適宜配置し、創造性を培うとともに自ら学ぼうとする態度を養えるよう配慮した(第2号)。</li> <li>・社会の発展に寄与する態度を養うため、実際、社会で応用されている例を示した(第3号)。</li> <li>・環境保全に対する態度を養うため、人間生活と生態系・環境への影響に配慮した(第4号)。</li> </ul>	<p>全般</p> <p>全般</p> <p>p. 27, p. 29 など</p> <p>全般</p> <p>p. 34-40</p>
第3章 果樹の栽培管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・真理を追究してきた研究の歴史や先端的研究の成果などを適宜示し、真理を求める態度を養えるようにした(第1号)。</li> <li>・実際に学習した知識・技術を活用できるよう配慮した。また、学習内容を活用する活動例を示すことで、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うようにした(第2号)。</li> <li>・果樹栽培や果実生産とその背景にある知識の理解を深めるための課題を適宜配置し、創造性を培うとともに自ら学ぼうとする態度を養えるよう配慮した(第2号)。</li> </ul>	<p>全般</p> <p>p. 47, p. 67 など</p> <p>p. 44, p. 54 など</p>
第4章 カンキツ類 第5章 リンゴ 第6章 ナシ 第7章 ブドウ 第8章 モモ 第9章 カキ 第10章 その他の果樹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・真理を追究してきた研究の歴史や先端的研究の成果などを適宜示し、真理を求める態度を養えるようにした(第1号)。</li> <li>・実際に学習した知識・技術を活用できるよう配慮した。また、学習内容を活用する活動例を示すことで、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うようにした(第2号)。</li> <li>・果樹栽培や果樹生産をできる人材を養成すべく、具体的手順を中心に取り扱い、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養えるよう配慮した(第2号)。</li> <li>・果樹栽培や果実生産とその背景にある知識の理解を深めるための課題を適宜配置し、創造性を培うとともに自ら学ぼうとする態度を養えるよう配慮した(第2号)。</li> </ul>	<p>全般</p> <p>全般</p> <p>全般</p> <p>p. 87, p. 88 など</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の発展に寄与する態度を養うため、実際、社会で応用されている例を示した(第3号)。</li> </ul>	p. 101, p. 126 など
第11章 果実の流通と経営改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・果樹経営をできる人材を養成すべく、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養えるよう配慮した(第2号)。</li> <li>・社会の発展に寄与する態度を養うため、実際、社会で応用されている例を示した(第3号)。</li> </ul>	全般  全般
第12章 高校生による実践活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生による実践例を通じて、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養えるよう配慮した(第2号)。</li> <li>・社会の発展に寄与する態度を養うため、実際、社会で応用されている例を示した(第3号)。</li> </ul>	全般  全般

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

学校教育法第五十一条の各目標を達成するため、以下の点に留意し、本書を編修した。

一 義務教育として行われる普通教育の成果を更に発展拡充させて、豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の生活が自然環境や植物の働きを利用した様々な農業生産物に支えられていることを改めて確認し、それらの保全や有効活用を考えることで、豊かな人間性や創造性を養えるように配慮した。</li> </ul>
二 社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な植物組織培養の方法や活用実態について取り上げ、専門的な知識や技術を習得した上で、実践的な活動につなげられるよう配慮するとともに、それらの知識や技術を活用できるよう配慮した。</li> </ul>
三 個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携活動などを通して自身の暮らす地域ならではの農業生産の応用や環境保全の方法について学習することで、地域社会の発展に寄与する態度を養えるよう配慮した。</li> </ul>

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
104-3	高等学校	農業	果樹	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	農業 717	果樹		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

「果樹」を学ぶにあたって、基礎的・基本的な知識と技術を修得することにより、本科目への興味・関心を喚起し、学習した知識と技術を実際に農業生産や国土保全、環境創造に役立てられるようにした。

### ●全体的な編修方針

1. 果樹や果実生産について、その応用に必要とされる基礎的な知識および技術を一通り習得できるようにした。
2. 具体的な学習活動においてプロジェクト学習を意識しながら進められるようにした。
3. 基礎理論部分などでも、できるだけ図や写真によって視覚的に理解できるようにするため、原則として各ページの下段を図・写真・表とし、上段を本文とする紙面構成とした。
4. 具体的な果樹栽培・果実生産を取り上げる各論は、理解しやすいように、カンキツ類・リンゴ・ナシなどの育成対象別に取り上げ、平易に解説した。
5. 取り上げる果樹の選択にあたっては、全国の各学校で共通に取り上げられているものを選択し、取り上げた。
6. 各節の初めには、「(学習の)目標」を箇条書きで示し、これから何を学ぼうとしているのか、学ぶとどんなメリットがあるのかなど、生徒の興味・関心をできるだけ喚起するように努めた。
7. 本文の記述にあたっては、文章はできるだけ短くし、簡素・平易な表現を心がけた。さらに、読みにくい用語にはルビをふり、重要用語はゴシックにするなどして、生徒が読みやすいようにした。
8. 本文相互間の関連が明らかになるように、必要に応じて参照ページを設け、学習の便をはかった。
9. 生徒に果樹への興味・関心を喚起するために、果樹の来歴や果樹に関する話題などをできるだけ「果樹あれこれ」などで紹介した。
10. 生徒が自ら考え・実施・体験できるように、側注部に「やってみよう」・「調べてみよう」などを取り上げ、生徒の主体的・対話的な学びや考え方の育成に努めた。

### ●各章の編修方針

1. 第1章から第3章は総論とし、各論を学ぶための基礎となる基本的な事項について取り扱

った。すなわち、第1章では、果樹にはどのような種類があり、世界および日本のどこで生産され、どのようにして消費者に渡するのか、果実は食品や社会生活の中でどのような価値があるのかなどについて、わかりやすく解説した。第1章の最後にプロジェクト学習について触れ、以後の学習においてプロジェクト学習を意識しながら進める必要があることを認識できるようにした。

2. 第2章では、果樹栽培の基礎となる果樹の発育と生理について、とくに果樹の一生および花芽形成・開花・結実・成熟に至までの動きを解説し、さらに果樹栽培と自然環境との関係を生産の安定・高品質果実生産の立場からできるだけ平易に記述した。
3. 第3章では、実際に果樹栽培を行うにあたって、とくに高品質で安定した果実生産を目標とした栽培管理技術を、よりわかりやすく解説し、各論への橋渡しの役割をもたせた。
4. 第4章から第9章の各論では、六大果樹の栽培から出荷まで、各果樹の特徴についてより詳しく学習できるように努めた。すなわち、中扉には各果樹の枝の出方と果実のつき方を図解した。また、各果樹の生育のすがたと栽培管理についても図示し、視覚的に果樹の生理・生態的な特徴や生育の相互関係を理解できるように工夫した。章末では生徒たちが実際に果樹栽培を行った場合を想定し、栽培面と経営面から各生育段階で栽培評価ができるようにし、果樹生産における問題点が体系的にわかるようにした。
5. 第10章では、全国各地で栽培されている果樹、あるいは将来性のある果樹を9種取り上げ、前述の六大果樹との特性の違いを理解させるとともに、興味と関心をもたせるように努めた。
6. 第11章では、多様化した果実の流通のしくみを理解させ、さらにこれまでの学習を踏まえて、果樹栽培における経済的・栽培的診断を作業体系、生産費、栽培技術などから問題点を解説し、その改善の必要性を示した。また、今後の果樹の栽培と経営のあり方についての指針を示し、果樹の栽培と経営に興味と関心を喚起することに努めた。
7. 第12章では、果樹に関する一連の生産活動および経営の改善に取り組む活動を実際に行っている高校を紹介し、生徒が主体的・意欲的に果樹生産と経営に関する企業的な課題に取り組めるよう工夫した。
8. カラーページでは本文の内容の理解を助けるよう、六大果樹それぞれについて「おもな品種」・「生理障害」・「果樹のおもな病気とその症状」・「果樹のおもな害虫とその被害」を見やすく取り上げた。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
第1章 果樹の種類と果樹栽培の動向			11
1節 果樹の種類と果実の利用	(2)	p. 8-13	(5)
2節 果樹栽培の動向	(2)	p. 14-20	(5)
3節 果樹とプロジェクト学習	(1)	p. 21-24	(1)
第2章 果樹の生育と栽培環境	(3)		10
1節 果樹の生育と生理		p. 26-33	(5)
2節 果樹栽培と環境		p. 34-40	(5)

第3章 果樹の栽培管理	(4)		35
1節 苗木の育成		p. 42-46	(3)
2節 開園と更新		p. 47-50	(3)
3節 土壌管理		p. 51-55	(3)
4節 栄養と施肥		p. 56-58	(3)
5節 水管理		p. 59-62	(3)
6節 結実管理		p. 63-65	(3)
7節 結果調節		p. 66-67	(3)
8節 結果修正と整枝・せん定		p. 68-73	(5)
9節 気象災害の防止		p. 74-75	(2)
10節 病虫害の防止		p. 76-78	(3)
11節 植物成長調節剤の利用		p. 79	(1)
12節 施設栽培と特殊栽培		p. 80-84	(3)
第4章 カンキツ類	(4) (6)		(138)
1節 栽培上の特性と品種		p. 86-89	
2節 生育のすがたと栽培管理		p. 90-99	
3節 収穫・選別・出荷・貯蔵と加工		p. 100-101	
4節 植え付けと更新		p. 102-103	
5節 施設栽培		p. 104	
6節 栽培の評価と経営計画		p. 105-106	
第5章 リンゴ	(4) (6)		(138)
1節 栽培上の特性と品種		p. 108-111	
2節 生育のすがたと栽培管理		p. 112-124	
3節 収穫・選別・出荷・貯蔵と加工		p. 125-126	
4節 植え付けと更新		p. 127-128	
5節 栽培の評価と経営計画		p. 129-130	
第6章 ナシ	(4) (6)		(138)
1節 栽培上の特性と品種		p. 132-135	
2節 生育のすがたと栽培管理		p. 136-147	
3節 収穫・選別・出荷・貯蔵		p. 148-149	
4節 植え付けと更新		p. 150-151	
5節 施設栽培		p. 152	
6節 栽培の評価と経営計画		p. 153-154	
第7章 ブドウ	(4) (6)		(138)
1節 栽培上の特性と品種		p. 156-159	
2節 生育のすがたと栽培管理		p. 160-173	
3節 収穫・選別・出荷・貯蔵と加工		p. 174-175	
4節 植え付けと更新		p. 176-178	
5節 施設栽培		p. 179-180	
6節 栽培の評価と経営計画		p. 181-182	
第8章 モモ	(4) (6)		(138)
1節 栽培上の特性と品種		p. 184-186	
2節 生育のすがたと栽培管理		p. 187-193	
3節 収穫・選別・出荷・貯蔵と加工		p. 194	

4 節 植え付けと更新		p. 195	
5 節 施設栽培		p. 196	
6 節 栽培の評価と経営計画		p. 197-198	
第 9 章 カキ	(4) (6)		(138)
1 節 栽培上の特性と品種		p. 200-202	
2 節 生育のすがたと栽培管理		p. 203-209	
3 節 収穫・選別・出荷・貯蔵と加工		p. 210	
4 節 植え付けと更新		p. 211	
5 節 施設栽培		p. 212	
6 節 栽培の評価と経営計画		p. 213-214	
第 10 章 その他の果樹	(4) (6)		(138)
1 節 ウメとスモモ		p. 216-219	
2 節 オウトウ		p. 220-222	
3 節 ビワ		p. 223-225	
4 節 クリ		p. 226-228	
5 節 キウイフルーツ		p. 229-231	
6 節 イチジク		p. 232-234	
7 節 ブルーベリー		p. 235-237	
8 節 マンゴー		p. 238-240	
第 11 章 果実の流通と経営改善	(5)		10
1 節 果実の流通とその改善		p. 242-245	(4)
2 節 果樹の経営とその改善		p. 246-252	(6)
第 12 章 高校生による実践活動	(1) (6)	p. 254-266	6
		計	210